

# NKSJ HOLDINGS

株主の皆さまへ

## 第2期 株主通信

2012年3月期

### contents

- 1 ... NEWS FLASH
- 3 ... トップメッセージ
- 5 ... 経営統合の進捗状況  
～グループストラクチャー～
- 6 ... 損保ジャパンと日本興亜損保の合併
- 7 ... 経営計画アップデート
- 9 ... NKSJグループの考えるCSR
- 11 ... 連結財務ハイライト  
(NKSJホールディングス)
- 12 ... 財務ハイライト  
(損保ジャパン、日本興亜損保、NKSJひまわり生命)
- 15 ... 会社概要／役員／株式の状況
- 17 ... 株主メモ

NKSJホールディングス株式会社

証券コード：8630



2012年3月

## 損保ジャパンと日本興亜損保が合併に関する基本合意

2012年1月にNKSJホールディングスが公表した「グループ戦略の加速と業績回復に向けた今後の取り組み」にしたがって、「世界で伍して戦える新しい会社」に関する検討・協議を重ねた結果、損保ジャパンと日本興亜損保は2014年度上半期を目途に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」を設立することとしました。



最もお客さまに評価される損害保険会社になることを最重要の経営戦略目標として、持続的な成長を目指すとともに、引き続き持続可能な社会づくりに貢献していきます。

損保ジャパンと日本興亜損保は共同本社化を順次開始しており、2013年度末を目標に営業・SC拠点の同居を進めていきます。

(注)「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」の詳細は6ページをご確認ください。

2011年12月

## 「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」への署名

NKSJホールディングスならびにグループ各社は、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」の趣旨に賛同し、署名を行いました。本原則は、環境金融の取り組みの輪を広げていく仕組みとして新たに策定されたものです。

NKSJグループは、国内金融業界に先駆けて地球環境問題に先進的に取り組んでおり、環境・社会に優しい商品・サービスなどのリスクファイナンス・リスクソリューションを提供しています。今後も「NKSJグループの考えるCSR(CSR基本方針)」に掲げる「持続可能な社会の実現に貢献する」ことを目指して、グループ各社での本業を通じた取り組みを加速していきます。

2012年4月

## 保険提案にタブレット型端末を活用

損保ジャパンは、「丁寧でわかりやすい」保険説明のために、プレゼンテーションに適して携帯性のあるタブレット型端末用の保険提案アプリを開発しました。



お客さまを取り巻く日常のリスクや事故発生時の支出額の予想、それに対応する保険商品のわかりやすいご説明が可能となり、お客さま対応力の一層の向上を実現します。

2012年2月

## 損保ジャパン公式Facebookページ開設

損保ジャパンは、公式Facebookページを開設しました。スマートフォン用アプリ「トラブルCh」でも紹介している「クルマのバッテリー上がりの対処法」「パスポート紛失時の連絡先」など、それぞれの領域の専門家による日常生活に関するトラブル解決策を紹介。このほか、損保ジャパン東郷青児美術館の展覧会情報、損保ジャパンのCSRの取り組みなどを紹介しています。



お客さまのお役に立つ情報を発信することで、お客さまとのコミュニケーションを図り、損保ジャパンの認知度と企業イメージの向上を目指します。

〈損保ジャパン公式FacebookページURL〉  
<http://www.facebook.com/sompojapan>

2011年10月

## 「第3回 Make a CHANGE Day アワード」奨励賞を受賞

NKSJグループは、「Make a CHANGE Day 実行委員会」が主催(共催「ボランティア国際年+10」推進委員会、朝日新聞社)する「第3回 Make a CHANGE Day アワード」において、奨励賞を受賞しました。

2011年10月から12月を「NKSJボランティアデー」と定めて、全グループ社員にボランティア活動への参加を呼びかけた結果、全国で約60の活動が実施され、約1万人の社員が参加したことなどが評価されたものです。

古本回収、被災地の物産品販売などの東日本大震災の被災地支援をはじめ、自然・環境活動、途上国への絵本の寄付、防災イベント、介助犬デモンストラーションなどを実施しました。



2011年10月・2012年4月

## NKSJグループに新会社2社が誕生

2011年10月、損保ジャパンひまわり生命と日本興亜生命が合併して、「NKSJひまわり生命保険株式会社」が発足しました。

グループの生命保険事業を担う戦略的子会社として、経営基盤をさらに強固なものとし、成長を加速していきます。

また、NKSJホールディングスは、2012年4月、民間企業としては国内最大手のアシスタンス会社である株式会社プライムアシスタンス・インターナショナルとアシスタンス事業を営む合併会社「株式会社プライムアシスタンス」を設立しました。

いずれもNKSJホールディングスの直接子会社として、グループの成長を支えています。



2012年2月

## 〈価格.com〉自動車保険満足度ランキング 事故対応部門で第1位を獲得

日本興亜損保は、株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com」が発表した「2012年自動車保険満足度ランキング」において、「事故対応部門」で第1位を獲得しました。

日本興亜損保では、代理店とともに「お客さまにとって何がベストか」を常に考え、事故の際も代理店と一体となって、お客さまの不安や疑問を一つずつ丁寧に解消し、迅速な解決を目指しています。

また、リスクマネジメントのプロとして、事故予防も重要な責務と考え、代理店がお客さまに事故防止に関するアドバイスを無料で実施する「セーフティドライバ診断」などを通じて事故予防にも努めています。

今後も損害保険会社の使命である「社会への安心と安全の提供」に努め、さらなるお客さま満足度の向上を目指します。



2012年1月

## 日本興亜損保「エコラッタ」Facebook公式ファンページ開設

日本興亜損保は、企業キャラクター「エコラッタ」のFacebook公式ファンページを開設しました。「エコラッタ」が日々



のできごとの中で感じたことを発信したり、お客さまとコミュニケーションを図ったりすることで、日本興亜損保の認知度の向上やファンの増加を目指します。

〈日本興亜損保「エコラッタ」Facebook公式ファンページURL〉  
<http://www.facebook.com/ecoratta>



## 「お客さま評価日本一/No.1」 の実現を目指して

NKSJホールディングス株式会社  
取締役社長 櫻田 謙悟

日頃より皆さまのご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年発生した東日本大震災から1年余りが経過し、改めて被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

2011年度の業績（連結）は、タイの洪水など国内外の自然災害の影響を主因として518億円の経常損失、さらに税制改正の影響を受け922億円の当期純損失となりましたが、国内損害保険事業（正味収入保険料）および国内生命保険事業（生命保険料）とも増収するなど、順調に拡大しております。

2012年度はNKSJグループの発足3年目となり、統合によるシナジー発揮に向けた新しいステージとして、今後は世界で伍していくことを目指してまいります。発足以来約2年の間に、NKSJひまわり生命をはじめとするグループ会社の合併・統合を進めてまいりましたが、本年3月には、中核である損保ジャパンと日本興亜損保が2014年度上半期を目処に合併することを公表いたしました。新会社となる「損

害保険ジャパン日本興亜株式会社」は、正味収入保険料が国内で最大の損害保険会社となります。規模に加えてサービス品質でも業界をリードし、トップレベルの事業効率と収益性を安定的に維持してまいります。

国内生命保険事業では、グループの経営資源を戦略的に投入するとともに、損害保険とのクロスセルモデルを徹底することにより、持続的成長を目指してまいります。これらの取り組みに加え、お客さまに損害保険・生命保険を含めた安心・安全を支援する先進的なサービスをご提供することにより、真のサービス産業への進化を図り、さらなる成長を目指して海外にもその取り組みを拡大していきます。

NKSJグループは、今後も安心・安全に資する最高品質のサービスをご提供することをグループの社会的使命とし、引き続き収益の拡大・事業の効率化に取り組み、株主価値およびお客さま評価の向上に努めてまいります。今後とも、NKSJグループへのご愛顧・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月

### 【グループ経営理念】

NKSJグループは、お客さまの視点ですべての価値判断を行い、保険を基盤としてさらに幅広い事業活動を通じ、お客さまの安心・安全に資する最高品質のサービスをご提供し、社会に貢献します。

### 【グループ行動指針】

お客さまに最高品質のサービスをご提供するために

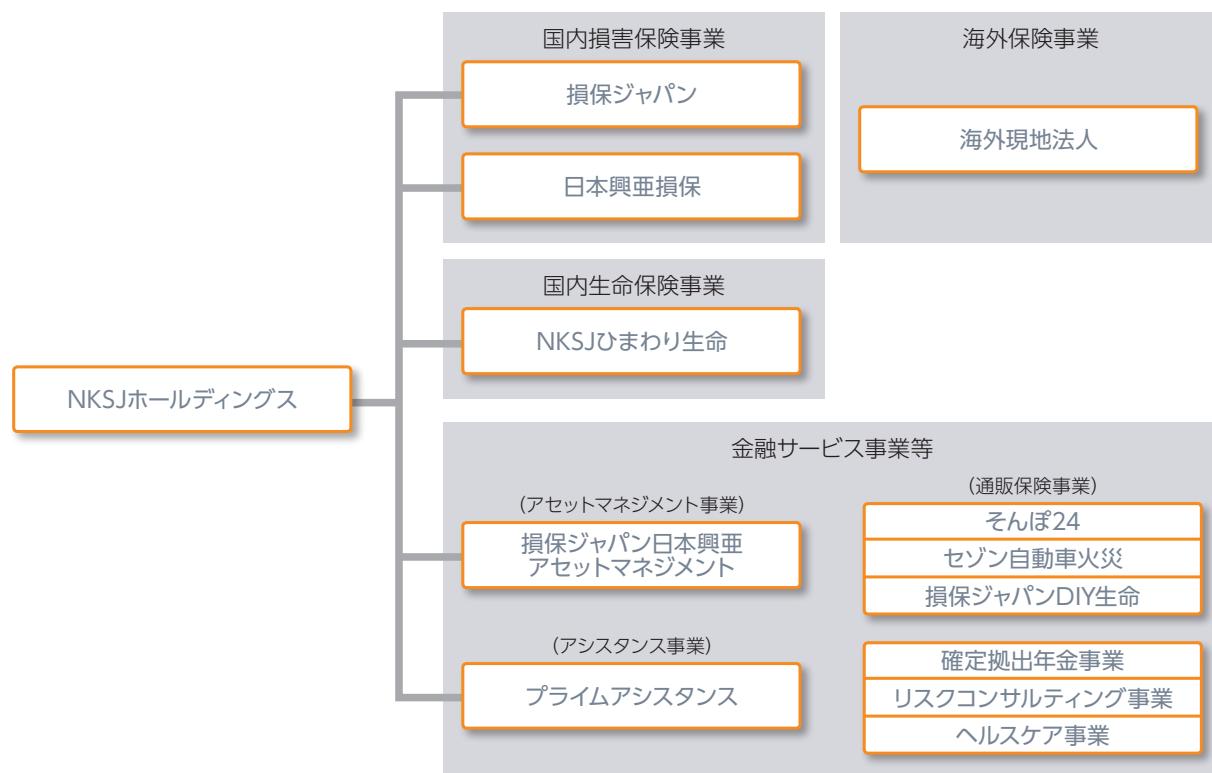
1. 一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、お客さまの声に真摯に耳を傾け、行動することに努めます。
2. 自ら考え、学び、常に高い目標に向かってチャレンジします。
3. 「スピード」と「シンプルでわかりやすく」を重視します。
4. 誠実さと高い倫理観をもって行動します。

### 【目指す企業グループ像】

真のサービス産業として「お客さま評価日本一/No.1」を実現し、世界で伍していくグループを目指します。

○ グループ傘下会社の合併・統合作業は順調に進んでいます。

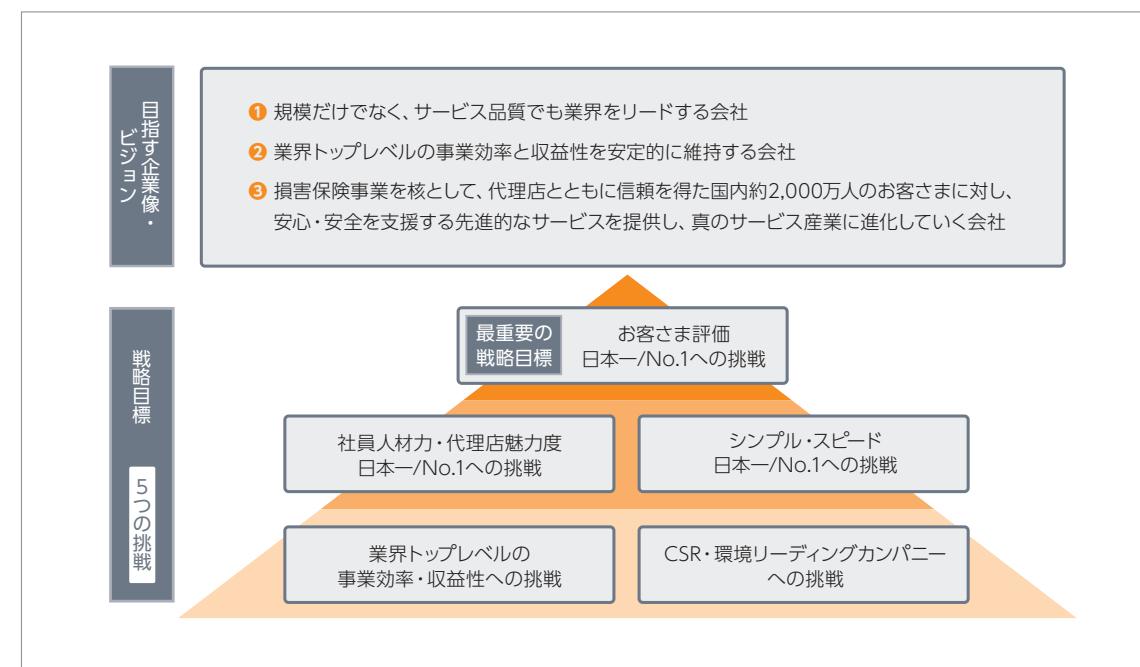
- 2011年10月、損保ジャパンひまわり生命と日本興亜生命が合併し「NKSJひまわり生命」が誕生しました。
- 2012年4月、アシスタンス事業を営む「プライムアシスタンス」を設立しました。
- いずれもNKSJホールディングスの直接子会社として、グループの成長を支えていきます。



○ 損保ジャパンと日本興亜損保は2014年度上半期を目途に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」を設立します。

- 損保ジャパン日本興亜では、最もお客さまに評価される損害保険会社となることを最重要の経営戦略目標とし、持続的な成長を目指していきます。
- 損保ジャパン日本興亜のスタートまでにはあと約2年を要しますが、それを待たずに、共同本体制の構築や営業・サービスセンター拠点の同居を進め、システム統合についても着実に準備を進めていきます。

【目指す企業像・ビジョンと5つの挑戦（戦略目標）】



○ NKSJグループの経営数値目標として、2015年度の「修正連結利益1,600億円」、「修正連結ROE7%以上」を掲げ、目標の達成に向けて、グループをあげて取り組んでいます。

- 国内損害保険事業においては低成長下でも収益を確保できるよう体質改善を実現するとともに、国内生命保険事業および海外保険事業の成長戦略をさらに加速していきます。

### 【経営数値目標（2015年度）】

国内損害保険事業	810億円
国内生命保険事業	550億円
海外保険事業	200億円
金融サービス事業等	40億円
合計（修正連結利益）	1,600億円
修正連結ROE	7%以上

修正利益の計算方法は、以下のとおりです。

事業区分	修正利益計算上の事業の定義	修正利益の計算方法
国内損害保険事業	損保ジャパン、日本興亜損保の単体の合算	当期純利益 + 異常危険準備金繰入額（税引後） + 価格変動準備金繰入額（税引後） - 有価証券の売却損益・評価損（税引後） - 特殊要因
国内生命保険事業	NKSJひまわり生命	当期EV（エンベディッド・バリュー）増加額 - 増資等資本取引 - 金利等変動影響額
海外保険事業	海外保険子会社	財務会計上の当期純利益
金融サービス事業等	そんぽ24、セゾン自動車火災、損保ジャパンDIY生命、金融サービス事業、ヘルスケア事業など	財務会計上の当期純利益

修正連結ROEの計算方法は、以下のとおりです。

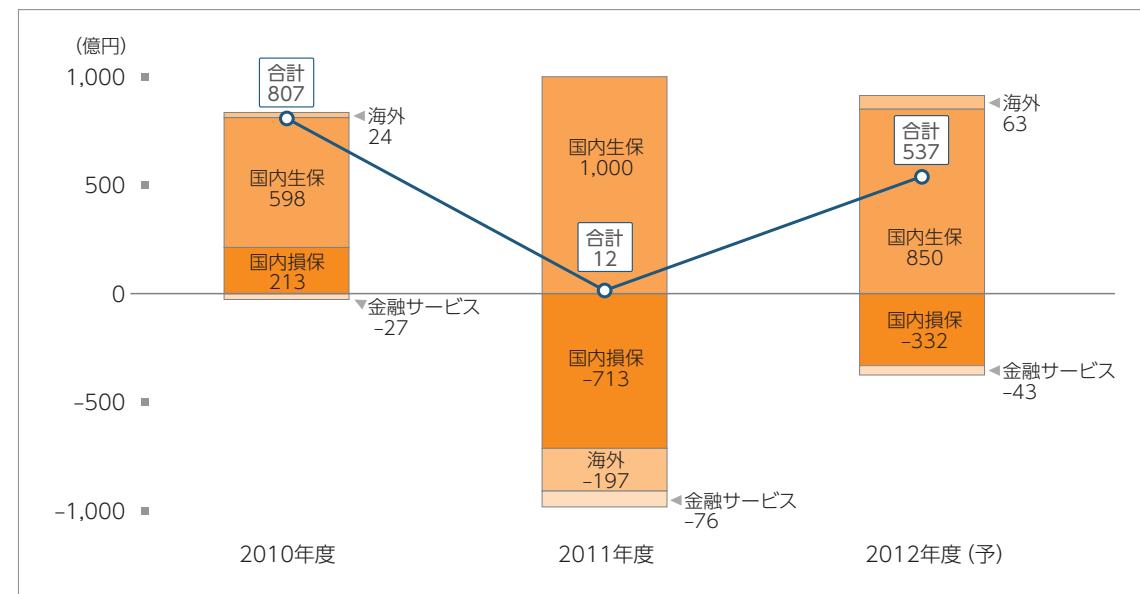
$$\text{修正連結利益} \div [\text{連結純資産（除く生保子会社純資産）} + \text{異常危険準備金（税引後）} + \text{価格変動準備金（税引後）} + \text{生保子会社EV}]$$

※分母は、期首・期末の平均残高

○ 2011年度の修正連結利益は自然災害等の影響を大きく受けましたが、2012年度は大幅に回復する見込みです。

- 2011年度は、国内自然災害やタイの洪水の影響などにより、国内損害保険事業および海外保険事業が赤字となりました。一方で国内生命保険事業は新契約獲得が引き続き好調だったことにより大幅増益となり、グループ全体の修正連結利益は12億円となりました。
- 2012年度は、自然災害が前年度より減少する予想のもと、国内損害保険事業で大幅な改善を見込みます。ただし自動車保険は厳しい状況が継続すると見込んでいます。国内生命保険事業は引き続き利益貢献を見込み、海外保険事業も回復を予想しています。これらの結果、修正連結利益は大幅に回復する見込みです。

### 【修正連結利益の推移】



# NKSJグループの考えるCSR



NKSJグループは、「第3回 Make a CHANGE Day アワード」奨励賞を受賞しました。

## 損保ジャパン 一歩先を見つめて

常に社会の一歩先を見つめて、損害保険事業をはじめとする本業の強みを活かし、ステークホルダーと未来に向けた対話を積み重ね、互いに協働することで社会的責任を果たしていきます。損保ジャパンのCSRの取り組みは、国内だけでなく、エシスフィア「世界で最も倫理的な企業2012」に2年連続で選出されるなど、海外においても高く評価いただいています。

### 重点課題① 気候変動における「適応と緩和」

「SAVE JAPAN プロジェクト」は、2011年4月の自動車保険Web約款導入に合わせてスタートした市民参加型の環境保全イベントを開催するプロジェクトです。ご契約の際、お客さまにWeb約款を選択



SAVE JAPAN プロジェクト  
霧多布温泉「奥琵琶瀬木道改修作業」

いただいた場合に、各地域の環境NPOへ寄付を行うという、市民参加型の環境保全活動を実施しています。2011年度は、全国12か所で34回開催し、2,000人を超える方に参加いただきました。2012年度は活動地域を拡大して、47都道府県で開催します。

### 重点課題③ CSR金融による社会的課題の解決

インド現地法人のユニバーサルソンプは、農村・貧困層向けのマイクロインシュアランス（小規模保険サービス）を展開しています。富裕層だけでなく貧困層の多い地方農村部にも保険を普及させ、貧困改善に寄与することを目指しています。



インドの農作業風景

### 重点課題② 安全・安心へのリスクマネジメント

心と身体両面の健康ニーズが高まるなか、全国訪問健康指導協会では生活習慣病予防サービスを、損保ジャパン・ヘルスケアサービスではメンタルヘルス対策サービスを提供しています。



「mimozu」パンフレット

### 重点課題④ 地域における協働の促進

「損保ジャパンちきゅうくらぶ」は、全社員がメンバーとして社会貢献活動を行うボランティア組織です。地域の課題にあわせた社会貢献活動に取り組んでいます。社員有志が月々の給与から寄付する「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」が、ちきゅうくらぶの活動を支えています。



損保ジャパンちきゅうくらぶ  
埼玉県嵐山町での間伐作業（首都圏ふれあいの森）



釜石市鶴住居町での人形劇の様子  
損保ジャパン名古屋ビルを拠点に活動する人形劇団「パペットシアター ゆめみトラノ」による公演

NKSJグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、経営基本方針を踏まえ、高い倫理観のもと、国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ、地域社会への配慮などを自らの事業活動に組み込みながら、企業としての社会的責任を果たしていきます。NKSJグループは、120年に及ぶ歴史のなかで培ってきた、損害保険事業を核とする本業の強みを活かし、これからも常に一歩先を見据えて、お客さまに「安心、安全」を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、新しい社会的価値の創造に挑み続けます。

## 未来に今、できること 日本興亜損保

企業理念と行動指針に基づき、保険事業をとおして、様々なステークホルダーの繁栄を支えるとともに、次世代への持続可能な社会の実現に貢献していきます。持続可能な社会を実現し、水と緑に囲まれたこの素晴らしい地球環境を未来へ引き継ぐために、「未来に今、できること」に取り組んでいます。

### 環境に配慮したサービス・商品の提供(カーボンオフセット)

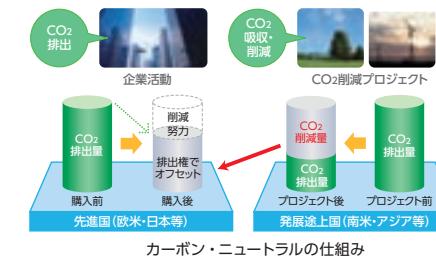
損害保険業界ではいち早く、2008年9月から保険商品・サービスに関連したカーボン・オフセット\*を実施してきました。これは、自動車保険の車両保険事故対応の際にリサイクル部品をご活用いただいた場合やご契約時に保険約款を紙で交付しない「Eco-Net約款」等をご選択いただいた場合などに、日本興亜損保が一定額を負担して排出権を購入し、お客さまの日常生活に伴う温室効果ガス排出量の一部を埋め合わせするものです。2011年5月1日から2012年3月31日までは、この取り組みを東日本大震災の被災地への義援金としての寄付に切り替え、保険契約をとおしてお客さまとともに、被災された地域の皆さまを支援してきました。この期間の累計の義援金は1億416万円になりました。

\*カーボン・オフセットとは…

日常生活などから排出される温室効果ガスについて、その全部または一部を他の場所で行われた排出削減プロジェクトなどにより実現された削減量を用いて埋め合わせる（オフセット）ことです。

### カーボン・ニュートラル宣言企業として自社のCO2排出量を削減

2008年7月に発表した「カーボン・ニュートラル宣言」に基づき、2012年度までにCO2排出量を“ゼロ”とする「カーボン・ニュートラル企業」を目指しています。このカーボン・ニュートラル化計画は、環境省のカーボン・ニュートラル認証制度において、国内第1号として承認されました。



### 【お知らせ】

被災地の早期復興と環境にやさしい地域づくりに貢献することを目的に、被災地の「低炭素型復興プロジェクト」\*などの支援を通じた、カーボン・オフセットを2012年4月1日から当面の間実施していきます。支援する被災地の低炭素型復興プロジェクトについては、環境省が促進しているオフセット・クレジット（J-VER）制度を活用した復興支援と連携して選定を行います。

\*低炭素型復興プロジェクトとは…

被災地における間伐等の森林管理や木質バイオマスの活用等による低炭素社会の実現に貢献するプロジェクトで、被災地の雇用拡大や経済発展に寄与することができます。

街、人、暮らしを、  
支え続ける。

日本興亜  
since 1899

### 日本興亜の森林(もり)を通じた森林整備活動

1998年に「日本興亜の森林(もり)」をハケ岳山麓に創設したのを皮切りに現在、全国に4拠点を設けています。

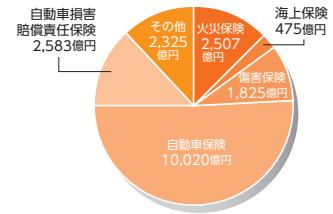
森林を持続可能な資源として整備・保全することにより、地球温暖化防止や生物多様性の保全など、地球規模の環境問題の解決に向けて積極的に取り組んでいます。



日本興亜・千葉房総の森林

	2011年3月期	2012年3月期
経常収益	26,216	27,905
保険引受収益	24,807	26,282
正味収入保険料	19,332	19,737
生命保険料	2,381	2,501
資産運用収益	1,291	1,510
その他経常収益	118	112
経常費用	26,281	28,423
保険引受費用	21,449	23,407
正味支払保険金	12,444	14,726
資産運用費用	515	725
営業費及び一般管理費	4,199	4,182
その他経常費用	117	108
経常損失(△)	△ 64	△ 518
当期純損失(△)	△ 129	△ 922
総資産	89,819	88,933
純資産	10,794	10,005

正味収入保険料の種目別内訳 (2012年3月期)



正味収入保険料

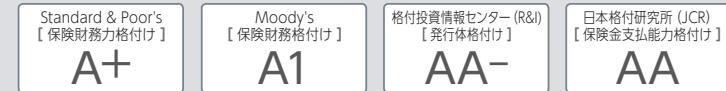
主力の自動車保険が料率改定を行ったことなどにより増収となったほか、火災保険、傷害保険、自動車損害賠償責任保険も増収となったことにより、正味収入保険料は、前期に比べて404億円増加(+2.1%)して、1兆9,737億円となりました。

経常損益・当期純損益

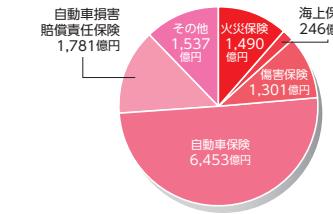
タイの洪水や台風などの自然災害の影響を主因として518億円の経常損失となったほか、法人税率引下げの影響などもあり、922億円の当期純損失となりました。

	2011年3月期	2012年3月期
正味収入保険料	12,566	12,811
(除く自賠責)	10,901	11,030
正味損害率	72.5%	80.6%
(除く金融保証・自賠責)	64.3%	77.4%
正味事業費率	33.7%	33.0%
(除く自賠責)	34.8%	34.7%
コンバインドレシオ	106.2%	113.6%
(除く金融保証・自賠責)	99.0%	112.1%
保険引受利益(△は損失)	△ 97	△ 249
資産運用粗利益	404	306
経常利益	205	39
当期純利益(△は損失)	121	△ 375
総資産	47,863	46,005
純資産	6,960	5,786
ソルベンシー・マージン比率(2012年3月31日)		502.5%

格付け(2012年6月1日現在)



正味収入保険料の種目別内訳 (2012年3月期)

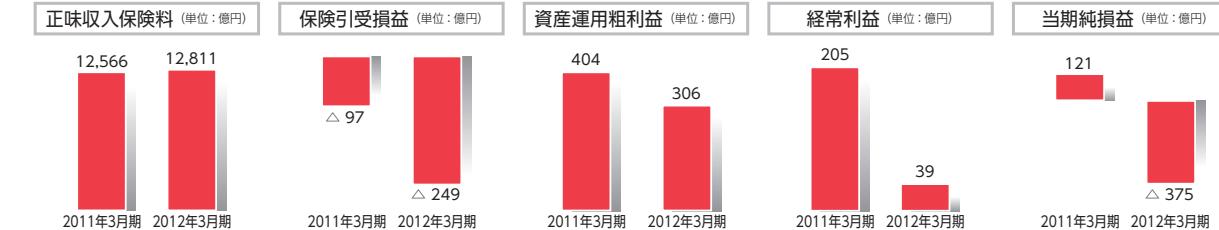


正味収入保険料

火災保険や傷害保険が好調であったことに加え、料率改定を行った自動車保険や自動車損害賠償責任保険においても増収となったことから、正味収入保険料は、前期に比べて245億円増加(+2.0%)して1兆2,811億円となりました。

経常利益・当期純損益

タイの洪水や台風など自然災害の影響により保険引受損益が減少したことなどから、経常利益は、前期に比べて165億円減少して39億円となりました。また、当期純損益は、法人税率引下げによる320億円のマイナス影響を受けて、前期に比べて496億円減少して375億円の当期純損失となりました。



**日本興亜損保 (単体)**

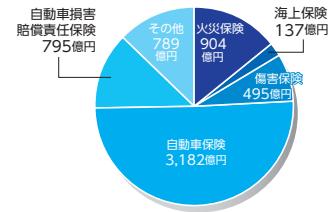
	2011年3月期	2012年3月期
正味収入保険料	6,206	6,306
(除く自賠責)	5,461	5,510
正味損害率	69.6%	84.7%
(除く自賠責)	65.0%	82.8%
正味事業費率	35.8%	35.0%
(除く自賠責)	37.2%	36.9%
コンバインドレシオ	105.3%	119.7%
(除く自賠責)	102.2%	119.7%
保険引受利益 (△は損失)	△ 249	△ 411
資産運用粗利益	284	310
経常損失 (△)	△ 3	△ 77
当期純損失 (△)	△ 64	△ 225
総資産	24,591	23,376
純資産	3,655	3,295
ソルベンシー・マージン比率 (2012年3月31日)		470.8%

格付け (2012年6月1日現在)

Standard & Poor's  
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)  
【発行体格付け】 **AA-**

正味収入保険料の種目別内訳 (2012年3月期)

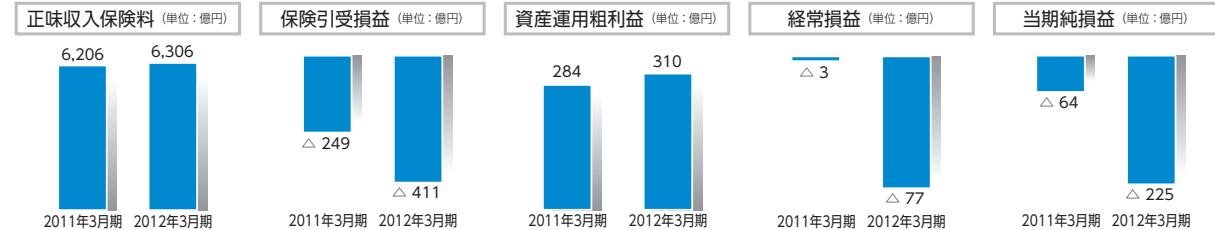


**正味収入保険料**

料率改定を行った自動車保険や自動車損害賠償責任保険に加え、火災保険やその他新種保険においても増収となったことから、前期に比べて99億円増加 (+1.6%) して6,306億円となりました。

**経常損益・当期純損益**

タイの洪水や台風など自然災害の影響により保険引受損益が減少したことなどから、経常損益は、前期に比べて74億円減少して77億円の経常損失となりました。また、当期純損益は、法人税率引下げによる148億円のマイナス影響を受けて、前期に比べて161億円減少して225億円の当期純損失となりました。



**NKSJひまわり生命 (単体)**

	2011年3月期	2012年3月期
保有契約高	162,013	176,597
新契約高	30,673	29,683
保有契約年換算保険料	2,758	2,862
新契約年換算保険料	381	367
保険料等収入	3,551	3,601
保険金等支払金	1,779	1,728
基礎利益	8	58
経常利益	18	42
当期純損失 (△)	△ 17	△ 111
総資産	17,154	18,092
純資産	794	757
ソルベンシー・マージン比率 (2012年3月31日)		1,449.5%
エンベディッド・バリュー (EV) (2012年3月31日)		6,153

格付け (2012年6月1日現在)

Standard & Poor's  
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)  
【保険金支払能力格付け】 **AA-**

※2011年3月期は損保ジャパンひまわり生命と日本興亜生命の合算値、2012年3月期はNKSJひまわり生命と日本興亜生命上半期実績との合算値です。  
※保有契約高・新契約高・保有契約年換算保険料・新契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。

**保険料等収入**

金利低下を受け一時払終身保険の販売抑制による減収があったものの、収入保障保険、医療保険などが増収となったことにより前期に比べて50億円増加 (+1.4%) して3,601億円となりました。

**経常利益・当期純損益**

保険料等収入の増加に加え、発生保険金等が減少したことなどから、経常利益は、前期に比べて23億円増加して42億円となりました。また、当期純損益は、合併関連費用 (特別損失) 117億円の発生、法人税率引下げによる36億円のマイナス影響を受けて、前期に比べて93億円減少して111億円の当期純損失となりました。



**用語解説**

**ソルベンシー・マージン比率とは?**

保険会社の健全性を見るうえで重要な指標のひとつで、予測できない大災害が発生した場合に、保険金を支払う能力があるかどうかを判断する数値です。一般的に200%以上なら保険金支払能力は問題ないとされています。

**エンベディッド・バリュー (EV) とは?**

生命保険会社の価値・業績を評価する指標のひとつ。「企業の純資産価値」と「保有契約からもたらされる将来利益の現在価値」を合計したもので、生命保険会社の損益計算書等の会計情報を補完する指標となるものです。欧州やカナダなどでよく用いられています。当社でも、エンベディッド・バリューを経営管理上重要な「社内評価指標」と位置づけています。

## 会社概要 (2012年3月31日現在)

会社名 …………… NKSJホールディングス株式会社 (英文表記: NKSJ Holdings, Inc.)  
 本店所在地 …………… 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号  
 設立日 …………… 2010年4月1日  
 資本金 …………… 1,000億円  
 従業員数 …………… 35,542名 (連結)  
 事業内容 …………… 損害保険会社、生命保険会社その他の保険業法の規定により子会社等とした  
 会社の経営管理およびこれに附帯する業務

## 役員 (2012年6月27日現在)

代表取締役会長兼執行役員 二宮 雅也	取締役 (社外取締役) 川端 和治
代表取締役社長兼執行役員 櫻田 謙悟	取締役 (社外取締役) ジョージ・オルコット
取締役専務執行役員 辻 伸治	取締役 (社外取締役) 松田 章
取締役常務執行役員 高田 俊之	執行役員 (経営管理部長) 西脇 芳和
取締役執行役員 山口 雄一	常勤監査役 湯目 和史
取締役執行役員 西澤 敬二	常勤監査役 吉満 英一
取締役 (社外取締役) 弦間 明	監査役 (社外監査役) 増田 宏一
取締役 (社外取締役) 朝香 聖一	監査役 (社外監査役) 保田 眞紀子
取締役 (社外取締役) 藤田 純孝	監査役 (社外監査役) 西川 元啓

## 株式の状況 (2012年3月31日現在)

### 株式の総数、株主数

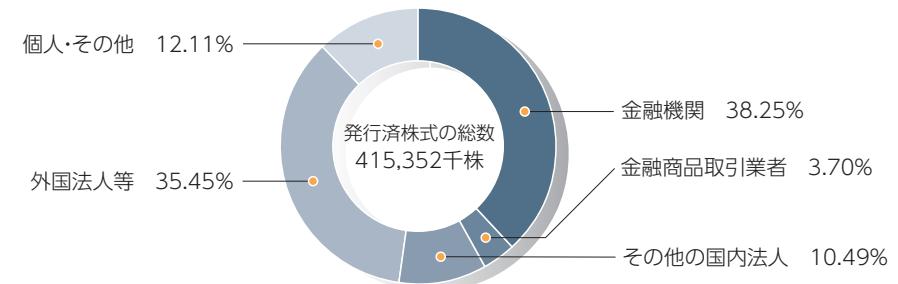
発行可能株式総数 …………… 1,200,000,000 株  
 発行済株式の総数 …………… 415,352,294 株  
 株主数 …………… 51,617 名

### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	25,002	6.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	19,313	4.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	14,747	3.55
NKSJホールディングス従業員持株会	11,807	2.84
第一生命保険株式会社	10,227	2.46
CBNY - ORBIS FUNDS	8,997	2.17
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	8,667	2.09
株式会社みずほコーポレート銀行	8,513	2.05
日本通運株式会社	8,001	1.93
CBNY - ORBIS SICAV	7,850	1.89

(注) 第一生命保険株式会社の持株数には、同社が退職給付信託の信託財産として拠出している株式4,492千株が含まれております (株主名簿上の名義は「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 第一生命保険口」であります。)

### 所有者別株式分布状況



- 事業年度 …… 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 配当および議決権の基準日 …… 3月31日
- 単元株式数 …… 100株
- 公告の方法 …… 電子公告により行います。(http://www.nksj-hd.com/)   
ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。
- 上場証券取引所 …… 東京証券取引所(市場第一部) および大阪証券取引所(市場第一部)
- 株主名簿管理人 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号   
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 郵便物送付先および各種お問い合わせ先 …… 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号   
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部   
電話：0120-232-711 (通話料無料)
- 特別口座の口座管理機関 …… みずほ信託銀行株式会社および三菱UFJ信託銀行株式会社

## 株式に関する各種手続き

- 受取がお済みでない配当金のお受け取り、支払明細等の発行についてのお問い合わせは、株主名簿管理人へご連絡ください。なお、配当金のお支払期間は支払開始から3年間となっておりますので、お早目にご請求ください。
- 住所変更、配当金受領方法の指定および単元未満株式の買取・買増などの各種手続きについては、証券会社等に口座をお持ちの株主さまはお取引のある証券会社等へお問い合わせください。なお、証券会社等に口座がなく、特別口座で管理されている株主さまは、右記「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

## 特別口座からの振替手続き

特別口座に記録されている株式は「単元未満株式の買取・買増」を除いて売買ができませんので、お早目に証券会社に株主さまご本人名義の口座を開設していただき、当該口座へ振替手続きを実施していただきますようお願いいたします。詳細につきましては、右記「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

## 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

単元未満株式については、買取制度または買増制度をご利用いただくことができます。

### ● 単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。



### ● 単元未満株式の買増制度を利用

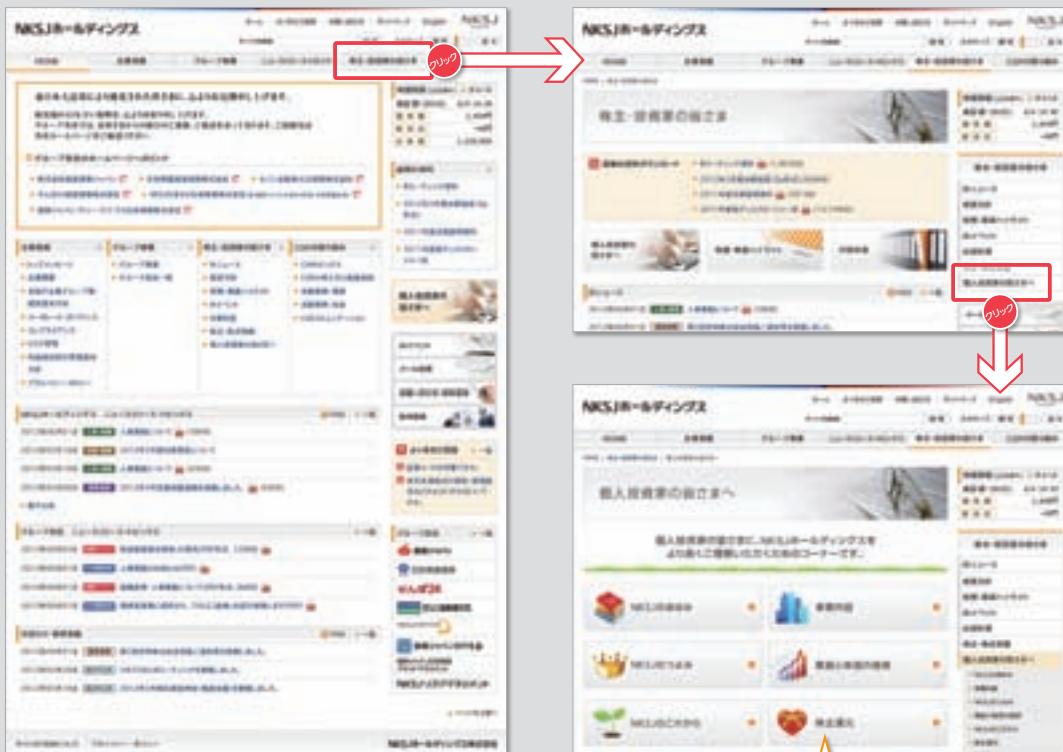
単元未満株式を当社から市場価格で買い増して、単元株式とする制度です。



## 特別口座の口座管理機関

	〔旧 損保ジャパンの株主さま〕	〔旧 日本興亜損保の株主さま〕
特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 および お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-288-324 (通話料無料)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (通話料無料)

# ホームページのご案内



<http://www.nksj-hd.com/>

個人投資家の皆さまに、NKSJホールディングスをより良くご理解いただくための情報をお届けします。

NKSJホールディングス株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号

TEL. 03-3349-3000 (代表)



この株主通信は環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。